

転倒は「悪」か？

高齢者の『転倒』にどのようなイメージをお持ちでしょうか。「骨折して寝たきりの原因になる」、「転倒しないように細心の注意を払う」などが多いと思います。

高齢者だけでなく、多くの医療従事者も転倒にネガティブなイメージを持っていますが、転倒の全てが『悪』なののでしょうか。

研究の方法は？

対象は、静岡県浜松市の老人福祉センター萩原荘が実施する二次予防事業元気はつらつ教室に参加していた認知機能障害のない高齢者57名でした。

屋内での転倒と屋外の転倒に関連する因子を調査しました。



地域在住高齢者の屋内外での転倒関連因子は異なる



転倒に関連する因子は？

屋内での転倒は低栄養のリスクが高い健康状態の不良な高齢者に多く、屋外での転倒は歩行能力・バランス能力が高い健康状態の良好な高齢者に多いことが明らかになりました。



新たな発見は？

転倒した場所によって転倒に関連する因子が異なることが考えられ、全ての転倒が必ずしもネガティブな存在ではない可能性が示されたのです。

